

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200354		
法人名	株式会社 はなみずき		
事業所名	グループホーム船穂はなみずき		
所在地	岡山県倉敷市船穂町船穂3194-1		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200354-00&PrefCd=33&VersionCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	令和2年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム船穂はなみずきは、倉敷市船穂町と真備町の境の山の上にある小さなグループホームです。リビングからは眼下に高梁川が見えます。倉敷市内から女性8人と男性1人の計9人の認知症の高齢者が入居され生活しています。入居者が安心して暮らせることを願い13人の職員と話し合い工夫しながら支援しています。何かの御縁で地球の中のこの場所に集まった入居者の方と犬と職員共に、ここでの生活を楽しみながらずっと続きますよう願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「美味しい御飯を食べて皆さんがニコニコ笑顔でいてくれたら最高」という想いで開設したホームがここに在る。「何かのご縁で今の出会いがあった方々に、それぞれの人生がある。可能な限りその人らしく生きて欲しい」と願う管理者・職員は「言いたい事が言える。自分のペースで自由に暮らす」ホームを目指している。他所では受け入れ難い希望でも「出来る限り好きにさせてあげたい」という視点で話し合っている。こんな雰囲気がいつも漂っているからだろう。リビングからの笑い声や楽しそうなおしゃべりの声が絶え間なく聞こえてくる。解放感が訪問者の私達にも伝わってくる。利用者が、ここでのびのびと暮らし、年を重ねるうちに看取ってくれる身内がいなくなる例もあると聞いた。その時、このホームが親族に代わって「心の身内」になる。「その方が愛しくてたまらないから・・・」と笑顔で語る管理者に頭の下がる思いをした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの生活が続けられその人らしく穏やかに地域で暮らせるように支援しています	基本的人権の保護を理念のトップに提示しているホームは多いが、ここでは可能な限り本人の意向につなげる努力をしている事が生活の中や記録から伺う事が出来る。また、一人ひとりの要望に叶えようとする職員の試行錯誤が多く見られる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑で収穫した野菜や果物を届けてくれたり、花見などの行事は声掛けをして一緒に参加していただいています。毎日訪問してくれる近所の方がいます。	このホームを中心として、近隣の方々・この地域に住む職員・その他の人々との関係性が入り交った付き合いが多く、これこそ「地域密着型のホーム」と言って良い交流が見られる。今日も訪問の常連さんがリビングを賑わしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	船穂町のふれあいサロンに出席し地域の高齢者と交流し認知症についてお話しています。		
4	(3)	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢者支援センター職員、民生委員、後見人さん、ご家族の参加で2ヶ月に1度開催しています。ホームの報告等をして意見交換をしています。	運営推進会議の規定通り多くの参加を得て充実した取り組みをしている。地域の方々の他に行政関係・有識者も参加してもらっているので、色々なアドバイスや情報提供もいただける状況と思われる。	ホームの運営やサービスのあり方等についてこの会議で話し合うのが目的であるので、意見交換の場面の記録をとりあえずメモしてみよう。参加者から意見が出にくい場合もあるので、職員側から提案を準備しておくのも良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からないことは指導監査課に尋ねたり、玉島福祉事務所とは連絡を密にとっています。	運営推進会議が2ヶ月毎にあるので日常的に情報交換や連携は取れているが、身寄りのない利用者が亡くなられた時等の対応については指導をいただいたり、事前に逐一連絡・相談をするようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化については年2回の所内研修等を通して職員とともに取り組んでいる。現在、玄関の施錠は行っていないが、安全面から外の施錠はしています。	現在、高齢ではあるが比較的元気な利用者がほとんどといった状態なので、禁止の対象となる事例はないが、具体的な事例を挙げて、グレーゾンの状況や気になる対応等について研修を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待については具体例を交えながら年1回程度の所内研修を行なっています。また職員のストレスコントロールについても話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	す。また入居者が成年後見制度を利用しており、後見人さんのお話を聞く機会が多いです。最近では市民後見人制度についてお話をしました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時はホームの内容やケアについて、重要事項の説明を行っています。不安事項、疑問点はお尋ねして、あれば説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族等の意見を伺っている。日常生活の中で本人の発言にも傾聴している。ご家族には毎月はなみずき通信をその人その人に合わせお渡ししている。	頻繁に面会に来られる家族もあれば、家庭の事情でなかなか足を運べない家族もある。ホームとしては、それぞれの状況に合わせて、ラインやメール・電話やお便り等で家族の意向を伺ったり、必要な連絡をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングを始め、気のついたことはその都度話し合って提案や意見は聞くようにし改善すべきところは直しています。	ある面から見るとこのホームの運営の厳しさを垣間見る事もあるが、利用者・職員が明るく楽しい空気を一杯はき出している。心に溜め込まないで日頃からよく話し合う間柄になっているので素早く意見はケアや運営につながっている。職員間の長年の意思疎通が反映しているのだろう。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準も明確にしておき、職員のやりがい等の気持ちを大切に、長く働けるように勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会を持ち、資質の向上ができるようにしている。社外研修は職員交代で参加している。毎年、異なったテーマの研修に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船穂町内の介護保険事業所交流会に参加し質の向上の取り組みをしている。また地域の施設の運営推進会議に参加し、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を決め、信頼関係を築いている。不安に思うことは担当職員から他職員へ共有し、取り除けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは定期的に連絡をとって、不安を少なくするように努めている。特に状況に変化があった場合はいつも以上に密に連絡をとっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めている。個別の支援や必要な対応も考えている。買物に外出したい人とは定期的に外出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い一緒に生活する者として助け合うこともある。高齢者の知識に職員が教えられる事もある。入居者と職員の年齢差が縮まっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力がある時はそうしている。当ホームは家族と縁の薄い人もいるが寂しさを感じずに生活してもらう		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問や馴染みの店へ買物に行く等の支援をしている。定期的に面会されるご家族に入居者が喜ばれる。	亡き兄の彫刻展覧会を高梁市までドライブがてら見に行ったり、利用者同士とても気が合い「こまどり姉妹」と呼ばれている人達もいると聞いた。家族や大勢の人がよく面会に来てくれる人ばかりではないが、これまでの馴染みの関係を大切に、訪問しやすい雰囲気作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間づくりや気の合う人と話ができるようにしている。男性入居者は利用者同士の関係の支援が難しい。一緒に歌番組を視聴したり暖かい季節は外気浴を犬とともに楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も家族の訪問やボランティアの申し出があり、亡くなった入居者の息子夫婦やめい御さんが訪問され懐かしがられています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でその人の人生歴も考慮し、希望、意向を把握できるように対応している。	「お金を持ちたい。〇〇万円くらい…」と訴える男性利用者の希望に対して、関係者で話し合って金庫を検討していると聞き、その人の思いを尊重し柔軟な対応をしていると感心した。赤い色が好きで持ち物にも拘りのある人に対しても同じような対応に、言いたい事が言え、叶う暮らしが実現出来ているホームだと思った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が歩んできた人生や得意な事を日常の会話の中から把握に努めている。カラオケ、読書、飲酒、ドライブ等支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活や心身の状態からその人らしい過ごし方をさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の話を聞きその人らしい暮らし、必要な介護等の計画をスタッフで検討し作成している。	一人ひとりにケアプラン立ち上げシートがあり、意向を基にいろいろな視点からニーズを掘り起こして、職員間で話し合いながらケアプランを作成している。ここを第二の我が家、終の棲家と思っている人が多いので、プランもその人のペースで自由な暮らしを支援する内容になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や介護記録等職員間で共有し、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、散髪、パーマなど希望の入居者に同行しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の派遣事業に毎年応募している。また近所の人達との交流を大切にし地域の中でその人らしい暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診し適切な医療や助言を受けている。発熱時は医師から様子を尋ねられる。かかりつけ医で対応ができない時は家族希望の病院を紹介してもらっている。	それぞれのかかりつけ医を受診しているが、家族の付き添いが難しい場合は、管理者等が受診に同行している。月に10日ほど医療連携で看護師が勤務し、日頃の利用者の健康管理や相談を受けてくれるので心強い。必要に応じて訪問歯科もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な介護の中での気づきを看護師に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。入居者も看護師を信頼し相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密にしたり関係づくりを行っている。高齢者が多く病院との関係は必要で急変のサイン等を見極める研修会に参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去にも経験したが家族・職員とも相談しながら出来る限りの支援をしていきたいと取り組んでいる。家族の協力が大切です	これまで看取りにも対応してくれていたホームの協力医が真備の豪雨災害で廃院し、現在はホームでの看取りは出来ない状況と聞いた。重度化が進んだり、医療が必要となった場合には入院となり、数名が病院で最期を迎えた。しかしそれまでは出来る限りホームでの生活を支援していこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者が多いので、いつでも対応できるように日常から知識や定期的な訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加して、年2回昼と夜を想定した避難訓練を実施している。立地条件より水害は想定しておらず、地震等で被災した場合は真備町の避難所に行くようにしている。	西日本豪雨災害の時にはこのホームも3日間断水し、トイレの水に困り、その経験を基に災害対策を見直し、ライフライン停止に備えて食料品等の備蓄をしている。年2回の避難・防災訓練では2階から実際に非常階段を使って利用者と共に外へ避難した。緊急時にはすぐ近くに住んでいる職員や地域の人の協力がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての勉強をしたり利用者を傷つけない言葉かけをするようにしている。	本人の望みでこれまでの生活習慣やスタイルを貫いている場合には、その人の人格を尊重して自分のペースで自由に生活してもらっている。また、排泄や入浴介助の時の羞恥心に対しても、言葉遣いや態度、プライバシー保護をするように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや、どうしたいのか尋ね安全面を考え自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを安心して過ごせるよう見守り声掛けもしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やパーマ、ヘアカラーなど本人の希望されるように支援している。 また洋服や下着などを買いに同行することもある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせ食べやすくしたり介助の必要な人にはさり気なく側についたり出来る人には後片付けをしてもらったりしている。	三食職員の手作りで、美味しい食事を楽しみにしている人が多く、食が元気の源となっている。敬老会等のイベントではビールや酎ハイで乾杯！畑で収穫した小玉スイカを皆で食べたり、BBQ、おやつパイキング等の楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し支援している。食事量と水分量の記録を残す時もある。体重の増減のチェックも行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや、義歯の手入れなど利用者の力に応じ保清に気をつけ声掛け見守りを行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立していない人には排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけトイレ誘導している。ホワイトボードにトイレ誘導した時間を記入しています。	1階と2階にトイレがあり、2階は3つ並んでトイレがあり、うち2ヶ所は女性用、1ヶ所は男性用と使い分けている。男性用便器も設置されているが全員トイレ座位で排泄している。自分でトイレに行く人が多いが、視力に問題のある人は手引き歩行でトイレ誘導したり、居室でポータブルトイレを使用している。	排泄が自立で布パンツを維持している人が3分の1いる状況下で、職員の目が届きにくい2階の3つ並んでいるトイレを巡り、男性と女性との間で使用の際のトラブルが発生する事もあるようだ。職員の臨機応変な解決策が功を奏している様子。今後の取り組み方に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ食事量運動等予防に取り組んでいる。医師に相談し下剤の服用をやめた入居者もあります。便秘3日目には飲食物の工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調に問題がなければ、午後のゆっくりした時間を入浴タイムとし楽しんでもらっている。ただ拒否の人もおられ年齢を考慮し対応している。その人の希望する方法で入浴してもらっている。	週2回の入浴を基本としているが、声かけしても面倒くさがり風呂が好きでない人が多いと聞いた。そんな時には「体重測ろう」等と言って誘っているようだ。シャワー浴は1名のみで、あとの8名は浴槽に浸かって入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に応じて日中は自由に過ごしている。夜は眠れない日もあり話し相手やお茶を飲んだり室温調整等眠れるよう支援している。5人の入居者がテレビを持ち込まれ21時頃まで視聴されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解できない利用者もいるがお薬はケースに入れ管理している。症状の変化等については医師看護師に相談、確認に勤めている。休薬の時はスタッフ全員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性趣味等に合わせ買い物、ドライブ、散歩、図書館と喜んで過ごせるよう支援している。思い出話だけでも喜ばれる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける入居者がほとんどで、日々の散歩以外にも四季の行事やドライブ、外食、地域の催し等に出掛ける。ホーム近くの愛宕山公園やワイナリーは四季おりおりの景色が楽しめます。近所の人も誘って行くこともあります。	半数以上が要介護1・2の人で元気な人が多い。全員で花見や紅葉狩りに出かけたり、希望者のみで美術館や文化祭の見学にも行っている。Aさんは船穂町総合文化祭で倉敷市長と撮った記念写真を大事に居室に飾っていた。天気の良い日はウッドデッキで日向ぼっこをしたり、近くを散歩して気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、欲しいもの必要なものはいっしょに買物に行く。お祭り等での好きなものの買物も出来る。立替えてほしいものを購入してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由につかえるように支援しているがほとんどの人はしない。携帯を持ち息子さんと頻繁に会話される人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームは狭いですが日当たりが良く、四季折々の景色を感じ居心地良く過ごす事が出来る。工作の得意なスタッフと壁飾りを作ったり折り紙や富士山の写真を貼って眺めています。	庭の垣根やフェンスに取り付けている餌箱に雀がたくさん寄って来る。それを目を細めて眺めている人達の会話が尽きることなく、傍ではパン屑をハサミで切って餌作りしている人もいてリビングは楽しい団欒の場となっている。2階の談話室は仲良し同士のおしゃべりの場となっている。ここではこんな日常が営まれていて家庭に近い環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームの中ではお好みの場所で話し相手と仲良く過ごせるようにしている。ホールで一人で過ごしたい人もいる。2階の談話室を気に入り、そこで手芸されている人もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットは備え付けですがテレビ・ラジカセ・椅子・ぬいぐるみ等お気に入りのものを持ち込みその人らしく過ごせるようにしている。片付けの苦手な人に強要しない	高台に位置している関係もあり、どの部屋も日当たりが良く明るく、窓からも街並みが遠望出来る。家族の写真、テレビ、馴染みの家具等を置いて過ごしやすくレイアウトしている。殆どの時間を自室で過ごしている人もいて、ここでは自分の生活スタイルが確立している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は1・2階ですが元気な人は階段を昇り降りしたり自立した生活を送ってもらっている。エレベーターを利用している人もいます。		